

自然公園等事業の事後評価表

事業名： 東北自然歩道（男鹿半島のみち）整備事業

事務所名等：秋田県
事後評価年度：25年度

| | | | | |
|---|--|-----------------------|--|--|
| 事業概要 | 新規採択年度：20年度 | 完成年度：20年度 | | |
| | 計画額：27,000千円 | 実行額：27,000千円 | | |
| | <p>事業目的： 男鹿半島を縦断する「なまはげの里をたどる道」は、春には”お山掛け”と称し、「なまはげ」が暮らしていた寺社を訪ね歩き、地域の五穀豊穡、人々の無病息災を祈願する行事が盛大に行われている。しかし、その道は険しく、雪解けや降雨等により、歩道や標識等の荒廃が進んでいることから、これを解消するための施設整備を行う。</p> <p>事業場所： 男鹿市船川港本山門前 ほか</p> <p>構造・規模等： 木道工73m、木製階段工259m、ベンチ取替工3基、案内標識取替工6基、既設柵補修工161本、既設柵撤去工85本、立入防止柵工539m、路面排水工6箇所、路面整正工2箇所、既設石段撤去工2箇所</p> | | | |
| 評価結果対比 | 費用便益分析 | 指標活用型評価 | 備考 | |
| 新規採択時評価 | 9.43 | 13 | | |
| 事後評価 | 6.99 | 13 | | |
| 事後評価の 実施 | 視 点 | 内 容 | | |
| | 実 績 確 認 | 費用対効果分析及び指標活用型評価要因の変化 | 利用者の減少により費用便益費は減少した。指標活用型評価については変化なし。 | |
| | | 事業効果の発現状況 | 歩道整備により、利用者の安全並びに利用環境の向上が図られた。 | |
| | | 事業実施による来訪者や周辺環境の変化 | 自然公園全体の来訪者の減少に伴い、当該自然歩道の利用者も減少した。 | |
| | | 社会経済情勢等の変化 | JR東日本のデスティネーションキャンペーンのCM撮影に当該歩道の起点となる五社堂が利用され、認知度が高まっていることから今後、利用者の増加が期待できる。 | |
| | 必要性の検討 | 今後の事後評価の必要性 | なし | |
| | | 改善措置の必要性 | なし | |
| | 同種事業の計画・実施のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 | なし | | |
| <p>1 事後評価の結果：</p> <p>ア. 効果の発現が十分で改善措置の必要性がない。</p> <p>イ. 今後時間の経過とともに効果の発現が期待できるため、経過観察が必要である。</p> <p>ウ. 効果の発現は期待できず改善措置の検討が必要である。</p> <p>2 上記1のウ.の場合の検討状況：</p> | | | | |